

渋谷駅中心地区広場ビジョン（案）を作成しました。

これまでの渋谷駅中心地区の都市空間は、上位計画の考え方を踏まえた内容で将来像の検討・計画がされてきました。検討・計画から約10年が経過し、民間の大規模開発により、民地内の公開空地等の歩行者空間が創出されてきた今、“自動車中心の都市計画”から“人間中心の都市空間”といった潮流にも後押しされ、交通処理機能の観点にとどまらず、渋谷ならではの「多様な広場空間の使い方」に焦点を当て、まちにプラスアルファの価値をもたらす「都市空間（特に、広場空間）のあり方」を議論することが求められています。

本ビジョンでは、駅前広場等に加え、公開空地等も対象に、官・民の枠にとらわれず、人々が様々な目的で、安全、快適に使うことができるよう、渋谷駅中心地区の広場空間に求められる機能に着目し、「渋谷ならではの広場空間のあり方」を提案します。

将来像



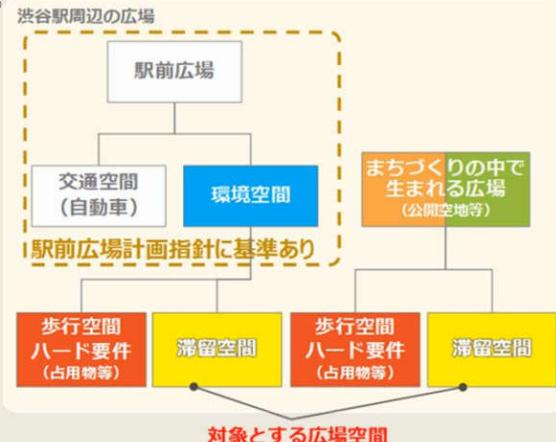
■対象エリア

渋谷駅中心地区を対象とし、周辺の状況を見つつ、渋谷駅直近の開発街区における考え方を中心地区全体に広げていきます。



■対象とする広場空間

駅前広場のうち交通空間（自動車）を除く環境空間、および公開空地等の広場から、歩行者に必要な空間と大規模な占用物などのハード要件を除いた「滞留空間」を対象とします。



本ビジョンでは、将来像の実現に向けて、**広場に求められる機能とまちの方面特性**に着目した広場の配置と、**広場整備の誘導方策と管理・運営の仕組みづくり**について、考え方を提示しています。

将来像の実現に向けた考え方

広場機能の配置と考え方

機能ごとの配置の考え方

渋谷駅中心地区の**広場空間に求められる機能を5つに整理**しました。

一般的に必要な機能に加え、渋谷ならではの地形や文化、まちづくりなどから生まれてきた機能を、渋谷駅中心地区の広場空間は担っています。

ここでは、**各機能について、どのような性質の広場がどのように配置されることが望ましいか、考え方のポイントを整理**しています。

ゲート
(待合せ)

憩い・潤い・
リラックス

交流・
にぎわい

情報発信

防災
(非常時)

方面ごとの配置の考え方

対象エリア周辺は方面によってまちの特性が異なっており、まちと駅をつなぐ**広場空間に求められる機能はまちの特性によって重要度が異なります**。ここでは、土地利用や歩行者交通などに関する対象エリア周辺の特性から、**JR線と国道246号で分けられる各方面の広場空間に具体的にどのような機能が期待されるか**を整理しています。

北西方面

北東方面

南西方面

南東方面

広場整備の誘導方策

必要な機能を適切に確保し、将来像を実現するための、様々な段階での対応・調整について、「**適切な機能確保の考え方**」および「**留意する事項**」を整理しています。

管理・運営の仕組みづくり

たくさんの人にとって使いこなしやすい広場空間となるよう、**持続可能な管理・運営の仕組み**を作っていくための考え方を整理しています。

本ビジョンは、渋谷区が定める行政計画ではありません。

本ビジョンは、これまでに渋谷駅中心地区に整備されてきた広場空間の検証、および、今後整備される広場空間も含め、渋谷駅中心地区の広場空間をより良くするための提言等に、基本的な考え方として活用します。

【お問合せ先】渋谷駅周辺広場空間等検討委員会 事務局

渋谷区 都市整備部 渋谷駅中心五街区課 基盤整備係

TEL03-3463-2945（直通） 担当：中島、叶、渡部

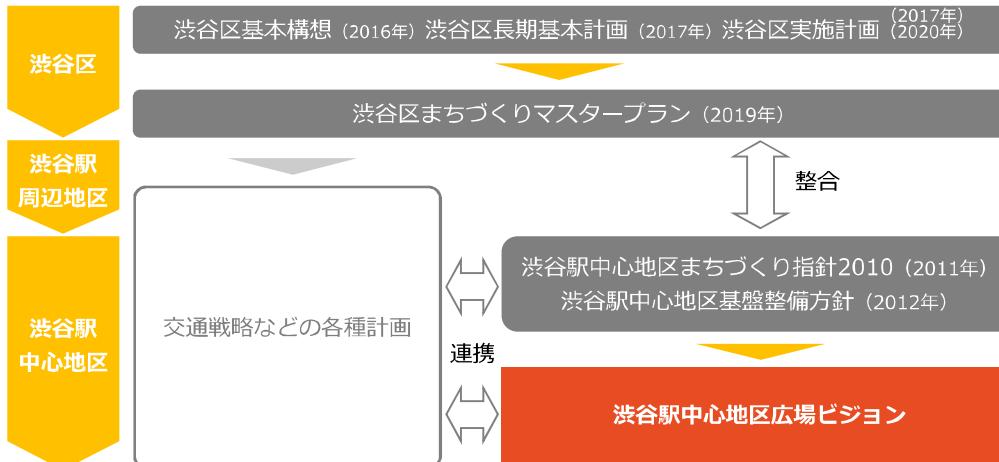
1.背景・目的

- ・渋谷駅中心地区の都市空間は、上位計画の考え方を踏まえた内容で将来像の検討・計画がされてきました。検討・計画から約10年が経過し、民間の大規模開発により、民地内の公開空地等の歩行者空間が創出されてきた今、“自動車中心の都市計画”から“人間中心の都市空間”といった潮流にも後押しされ、交通処理機能の観点にとどまらず、渋谷ならではの「多様な広場空間の使い方」に焦点を当て、まちにプラスアルファの価値をもたらす「都市空間（特に、広場空間）のあり方」を議論することが求められています。
- ・本ビジョンでは、駅前広場等に加え、公開空地等も対象に、官・民の枠にとらわれず、人々が様々な目的で、安全、快適に使うことができるよう、渋谷駅中心地区の広場空間に求められる機能に着目し、「渋谷ならではの広場空間のあり方」を提案します。
- ・今後、実際の使い方の工夫や運用の仕組みづくり等についても議論を重ね、ハード・ソフトの両面から、まちにプラスアルファの価値をもたらすより良い広場空間づくりを目指していきます。

2.本ビジョンの位置づけ・構成・対象

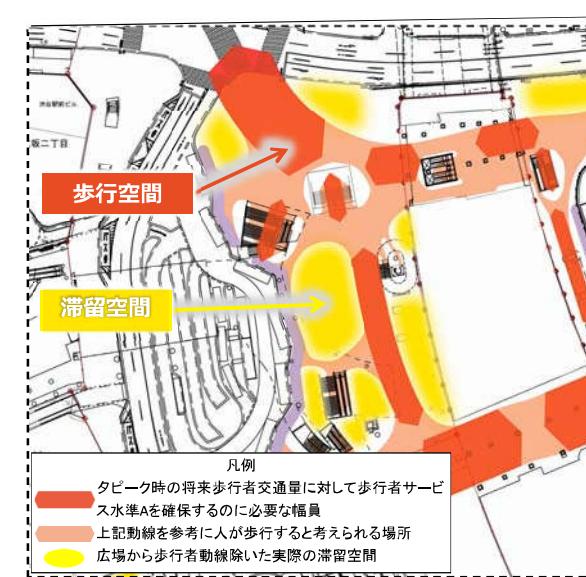
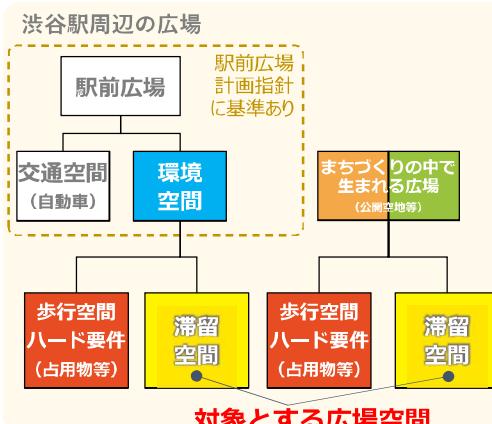
位置づけ

- ・上位計画の渋谷駅中心地区まちづくり指針2010（2011年）や渋谷駅中心地区基盤整備方針（2012年）にて示された、広場に関する将来像を具体化し、渋谷駅中心地区ならではの広場空間のあり方について方向性を示すものと位置づけます。



対象とする広場空間

- ・一般的に駅周辺には、大きく駅前広場とまちづくりの中で生まれる広場（公開空地等）が存在します。
- ・本ビジョンでは、駅前広場のうち交通空間（自動車）を除く環境空間および公開空地等の広場から、歩行に必要な空間と大規模な占用物などのハード要件を除いた「滞留空間」を、「渋谷ならでは」を生み出す空間ととらえ、議論の対象とします。



3. 渋谷の広場を取り巻く環境

対象エリア周辺の特性まとめ

- 方面によってまちの特性が異なっており、まちと駅をつなぐ広場空間に求められる機能はまちの特性によって重要度が異なります。



広場に求められる機能

- 渋谷駅中心地区の広場空間に求められる機能を、下記の表にまとめました。
- 渋谷駅中心地区の広場空間では、一般的に必要な機能に加え、渋谷ならではの地形や文化、まちづくりなどから生まれてきた機能を担っています。

▼渋谷駅の広場に求められる機能

機能	一般的な機能	渋谷ならではの追加機能
ゲート (待合せ)	・駅とまちの間 ・目印がある	・交通量が多い中で、安全に待合せができる
憩い・潤い・ リラックス	・静かで落ち着く ・開放的でゆったり過ごせる	・人の量や多様性があり周囲が気にならない ・腰をかけて休憩ができる ・都心の中での自分だけの居場所
交流・ にぎわい	・イベントができる ・人を集めための仕掛け (にぎわい創出)	・個性豊かで多様な活動 ・人が多いからこそできる、発信力を生かした仕掛け (広告・PRイベントなど)
情報発信	・情報をキャッチできる機能	・来街者がまち・個性を発信しトレンド・文化をつくり出す「情報を発信できる機能」
防災 (非常時)	・一時退避場所 ・災害情報の発信	・駅から離れる方向への退避を誘導する機能

4. 渋谷駅中心地区の広場ビジョン（将来像）

- 渋谷の広場を取り巻く環境から、毎日たくさん的人が行き交い、多様性や寛容性を大切にしている渋谷駅中心地区において、広場のあるべき将来像を掲げます。



5. 広場機能の配置と考え方

- 渋谷駅中心地区の広場の将来像や、まちの特性などから、各方面における機能の配置の考え方を整理しました。

宮益方面、青山方面への来街者や通勤通学者など様々な人が利用するエリア

- 地上と地下に待合せ機能を配置
- 東口広場（地上・地下）は、渋谷のまちにとって**非常に重要な空間**
- 待合せ、憩い、にぎわい機能が**バランスよく求められる**
- 北西方面に次いで交通量が多いため、**案内機能の充実**が求められる
- 中央棟先端部や宮益坂等との**つながりや見え方**を意識した空間とすることが重要

ハチ公広場・スクランブル交差点などがあり、渋谷の顔となるエリア

- 駅とまちをつなぐ出入口を踏まえ**待合せ機能**を配置
- ハチ公広場、JR線上空広場（先端部含む）は、渋谷のまちにとって**非常に重要な空間**
- ハチ公広場・スクランブル交差点の魅力を活かし、中央棟先端部など周辺施設も一体となって、**世界への発信力**を発揮できる空間とする
- 来街者を迎える**案内機能**が重要

中央街や桜丘方面への入り口となる広場

- 中央街や桜丘方面への**にぎわいの繋がり**を演出することが求められる
- 来街者がちょっと休憩できるような休憩機能が求められる

桜丘口方面への出入口となる広場

- 駅とまちをつなぐアーバン・コアには、**待合せ機能**を配置
- マルシェなどのイベントを行える**交流・にぎわい機能**も重要

周辺に広がる住宅地との接点となる広場

- 住民が日常的に利用し、地域の**コミュニティ**を育むような**憩い、交流、にぎわい機能**が求められる

まちとの接点となる広場

- ゆったりとした憩い機能が重要

渋谷2丁目方面への入口となる広場

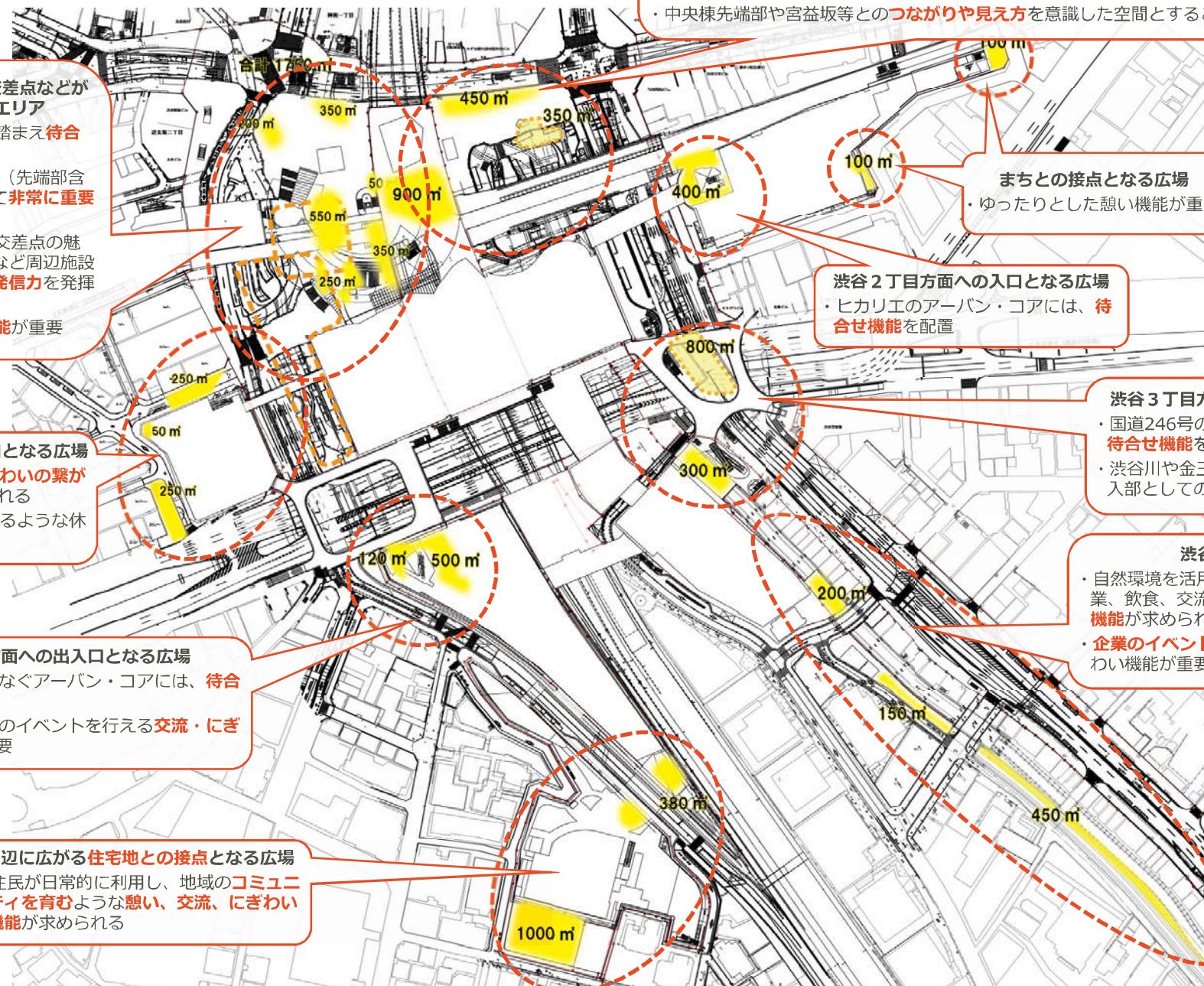
- ヒカリエのアーバン・コアには、**待合せ機能**を配置

渋谷3丁目方面への入口となるエリア

- 国道246号の地下広場や稻荷橋広場には、**待合せ機能**を配置
- 渋谷川や金王八幡宮など自然資源への導入部としての**緑のつながり**が求められる

渋谷川沿いの広場

- 自然環境を活用してゆったりと過ごし、作業、飲食、交流ができる、**ゆとりある憩い機能**が求められる
- 企業のイベントや交流**ができる**交流・にぎわい機能**が重要



5. 広場整備の誘導方策

- 渋谷駅中心地区の広場空間に必要な機能を適切に確保し、将来像を実現するためには、広場整備の様々な段階での対応・調整が必要です。

<適切な機能確保の考え方>

●現計画の機能転換の検討

→計画を精査し、機能転換や重層的・立体的な広場空間の創出を促す。

●設え等の工夫による面積の補完

→設え等の工夫により広場空間が果たす機能の強化を促す。

●機能配置の優先順位

→機能の優先順位を設定し、個別の状況も踏まえ柔軟に対応することも検討。



▲憩い・潤い・リラックスと交流・にぎわいの併用例(移動可能な植栽)

●新たな開発にあわせた面積確保

→新たな開発でも適切な面積・配置を促す。

<留意する事項>

●主要動線の確保

●機能を満たす設え

→必要な機能を満たす設えとする。物理的に面積確保が困難な場所は設え等の工夫が必要。



▲モニュメントや植栽の配置

●周辺施設との関係

→見る・見られるの関係などを大切にする。

●特に重要な広場

→ハチ公広場等の広場は、様々な角度から議論し、計画・設計・管理運営を検討する。

●プロセスマネジメント

→広場整備のプロセスマネジメントを大切にする。

●官民連携による効果的な整備手法

→効率的かつ効果的な広場整備を目指す。

6. 管理・運営の仕組みづくり

- 将来像を実現するためには、広場を整備するだけでなく、使いこなしていくことが重要です。そのために、たくさんの人にとって使いこなしやすい広場となるよう、持続可能な管理・運営の仕組みを作っていくことが大切です。

●一体的な管理・運営

→官・民の枠組みを超えて、使いやすく、使われやすい広場とするために、点在する広場空間を一体的に管理・運営していくことが重要。

例① エリアマネジメント組織による一体的な管理・運営

例② 官民が連携した持続可能な資金調達

●広場間での連携・情報共有

→エリアマネジメント等が主体となり、広場間連携や情報共有することが重要。

例① 広場利用の手続きの窓口一元化

例② イベント等の情報発信の一元化

●より良い広場を目指して

→ノウハウの共有・連携を深め、関係者が一体となって歩み続けることが重要。

例① 新たな技術を活用した維持管理

例② 管理・運営のノウハウの共有

参考) 広場機能の考え方と期待面積の算定

基本的な考え方

- 機能を満たす条件から、期待面積を導き出す考え方を整理しました。
- 整理した機能はいずれも渋谷駅中心地区の広場に求められる機能ですが、各機能の優先順位を以下の通りとしました。
※「期待面積」とは、本ビジョンにおいて「求められる機能の配置を考慮し、広場空間の使い方から考えた、まちの魅力をより高める広場空間として期待される面積」として用いる用語です。

1) 待合せ(ゲート)機能

・必須の空間であるので、具体的な位置・規模を特定し、先取りする。具体的な場所の特定と空間イメージを固める必要があるが、分散配置か集約配置かの議論が必要である。また、結果として憩い空間と一体的に考える必要も考えられる。

2) 憩い・潤い・リラックス機能

・待ち合わせ空間について優先順位が高いため、出来るだけ高い水準で確保することを目指すが、具体的な場所の特性によって「サービス水準を下げても、量を確保する方を重視する」という考え方も容認される。一方で、この空間は緑と一体的に確保されが望ましいため、全体としての緑被率(あるいは緑視率)を現在より悪くせず、できるだけ上げることを目指すことも重要。

3) 交流・にぎわい機能

・運営管理主体との連携を図って活動のイメージを高めつつ、可能な空間の確保を検討する。また、駅街区にとどまらない街中との連携が重要で、街中に活動拠点が配置されるときはその拠点と競合しないように配慮する必要がある。

4) 情報発信機能

・他の機能に付随する機能と捉え、優先順位は考えない。

5) 防災機能

・非常時の広場の活用については、安全確保計画と調整を図る。

▼各機能の優先順位の考え方

機能	優先順位の考え方
※各機能の優先順位 ゲート(待合せ)	・渋谷駅は1日に約330万入る人が利用する巨大ターミナル駅であり、駅周辺のまちへ多くの人が移動するため、特に駅とまちをつなぐ広場は安全に待合せができるゲート(待合せ)機能は最優先に確保する。
憩い・潤い・リラックス	・待合せに準じ、人の居場所となる重要な機能であることから、 ゲート(待合せ)機能の次に優先的に確保する 。
交流・にぎわい	・ゲート(待合せ)機能や憩い・潤い・リラックス機能に対し、まちに付加価値をもたらす重要な機能であることから、 上記2機能を先取りした上で配置の検討を行う 。

※個々の広場での機能の優先順位は、歩行者交通量や周辺の環境、土地利用等様々な要素から、憩い・潤い・リラックスや交流・にぎわい機能を優先するなど、柔軟に対応することも必要である。

情報発信	・他の機能に付随する機能と捉え、 優先順位は考えない 。
防災(非常時)	・非常時の広場の活用については、安全確保計画と調整を図る。

機能別の考え方

・必要な機能の考え方と期待面積（求められる機能の配置を考慮し、広場空間の使い方から考えた、まちの魅力をより高める広場空間として期待される面積）を整理しました。

ゲート（待合せ）

考え方のポイント

- ◆待合せのための期待面積は、将来の歩行者交通量に比例する。
- ◆駅の出入口を踏まえ、歩行者動線に近接して配置することが重要。

<具体的な算出イメージ>

$$\text{将来の待合せ期待面積[m]} = \text{①将来の待合せ発生人数[人]} \times \text{②1人あたりの占有面積[m/人]}$$

①将来の待合せの発生人数

→ 待合せの発生人数は周辺交通量に比例すると想定し、現在のハチ公広場で待合をしている人（座らず動いていない人）と、現況交通量調査の結果から、発生原単位を設定した。

（将来の発生人数は原単位×将来交通量）



▲待合せを行っている人数と空間面積

②1人あたりの占有面積

→ 1人あたりの占有面積について、平日、休日の調査を実施したところ、ともに待合をしている人の空間のサービス水準がA水準であったことから、将来計画においてもサービス水準Aを最低限確保することとした。

▼歩行者の空間(ジョン・F・フルーライン)の待ち空間におけるサービス水準

サービス水準	平均間隔	状況
A	120cm以上	立って待つ人々の間を、周囲の人々に迷惑をかけずに自由に通り抜けられる空間。
B	105~120cm	立っている人々の面積と同時に、不自由ではあるが迷惑をかけずに間を通り抜けられるだけの面積がある。
C	90~105cm	立って待つ人々の中を通り抜けることは、周囲の人々に迷惑をかけには行えない。

憩い・潤い・リラックス

考え方のポイント

- ◆期待面積は歩行者交通量や周辺の環境、土地利用等様々な要素により決まる。また、快適な空間はそれ自体が利用者を増加させる要因にもなる。
- ◆緑や椅子・テーブル等のファニチャーを設置するなど、周辺の環境に応じた憩いの空間を確保することを目指す。
- ◆駅の出入口直近等の、歩行者の流動量が多くゲート機能が重要視される場所では、現状程度の憩い空間を最低限確保する。
- ◆憩いの空間を整える設えとして、周囲の植栽や夏場の日陰等の要素にも留意する。

<具体的な算出イメージ>

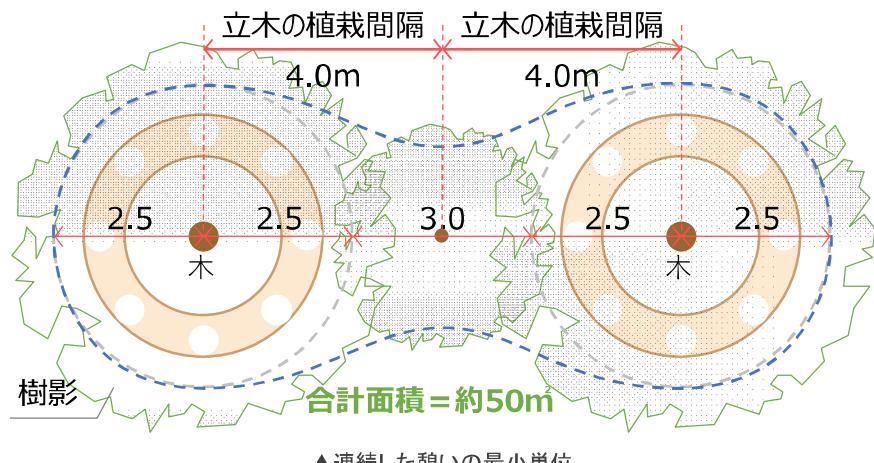
$$\text{将来の憩い期待面積[m]} = \text{①将来の憩いの発生人数[人]} \times \text{②1人あたりの占有面積[m/人]}$$

①将来の憩いの発生人数

→ 待合せと同様に、憩いの発生人数は周辺交通量に比例すると想定。→ 現在のハチ公広場で座って休憩している人と現況交通量調査の結果から、発生原単位を設定。（将来の発生人数は原単位×将来交通量）

②1人あたりの占有面積

→ 憩い・潤い・リラックスの機能は、少し腰掛けられる程度の空間から、木や緑が生い茂り、ベンチがあるような場所まで幅が広い。
→ そこで、人が休憩する面積（ベンチやテーブルを置く面積）として2種類の空間とその中間を想定し、占有面積を設定。



交流・にぎわい

考え方のポイント

- ◆各方面において、**多様な活動を実現するための面積を確保。**
- ◆中心地区全体として、交通規制を変更することなく日常的ににぎわいを創出できる空間を確保。
- ◆カウントダウンや盆踊りのように、**交通規制を変更して車道上も利用するようなイベントについては、広場の期待面積の議論とは別に、運用面での工夫等により対応する。**

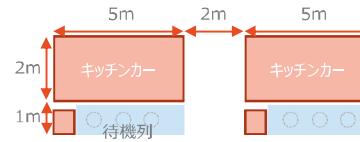
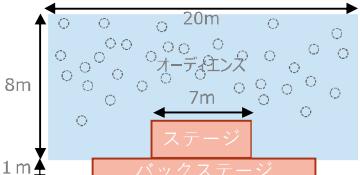
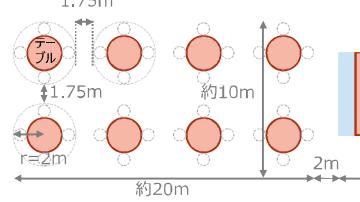
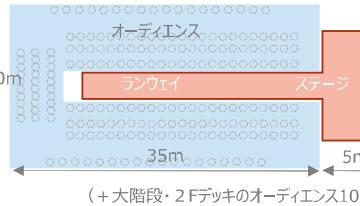
<具体的な算出イメージ>

将来の交流
期待面積[m²]

将来実現したいイメージ（ビジョン）を共有

イメージを実現するための様々なアクティビティの面積例から空間量を整理

交流・にぎわい機能の面積例

種類	面積例
キッチンカー	  約40m ² ～(2台の場合)
地域イベントの会場	  約200m ² ～
オープンカフェ	  約300m ² ～(4人掛けテーブル×8の場合)
文化発信イベント	  約400m ² ～

情報発信

考え方のポイント

- ◆広場には情報を「キャッチできる機能」と情報を「発信できる機能」の両方が重要。
- ◆まとまった面積を必要とする機能ではないが、方面によらず他のすべての機能に付随し、渋谷らしさを形成する大きな要因となる。

<情報をキャッチできる機能イメージ>



▲案内サイン

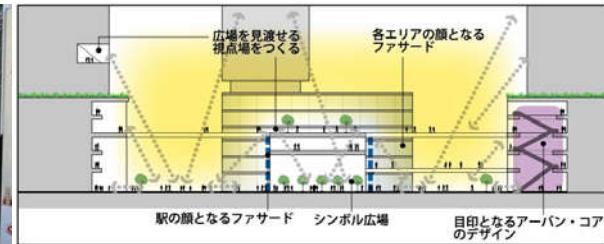


▲観光案内所

<情報を発信できる機能イメージ>



▲メディアによる発信

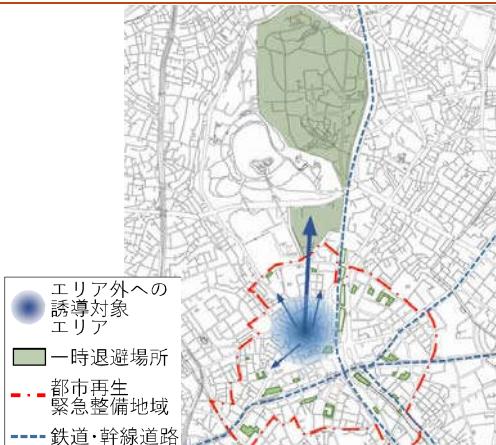


▲見る・見られる関係の空間

防災（非常時）

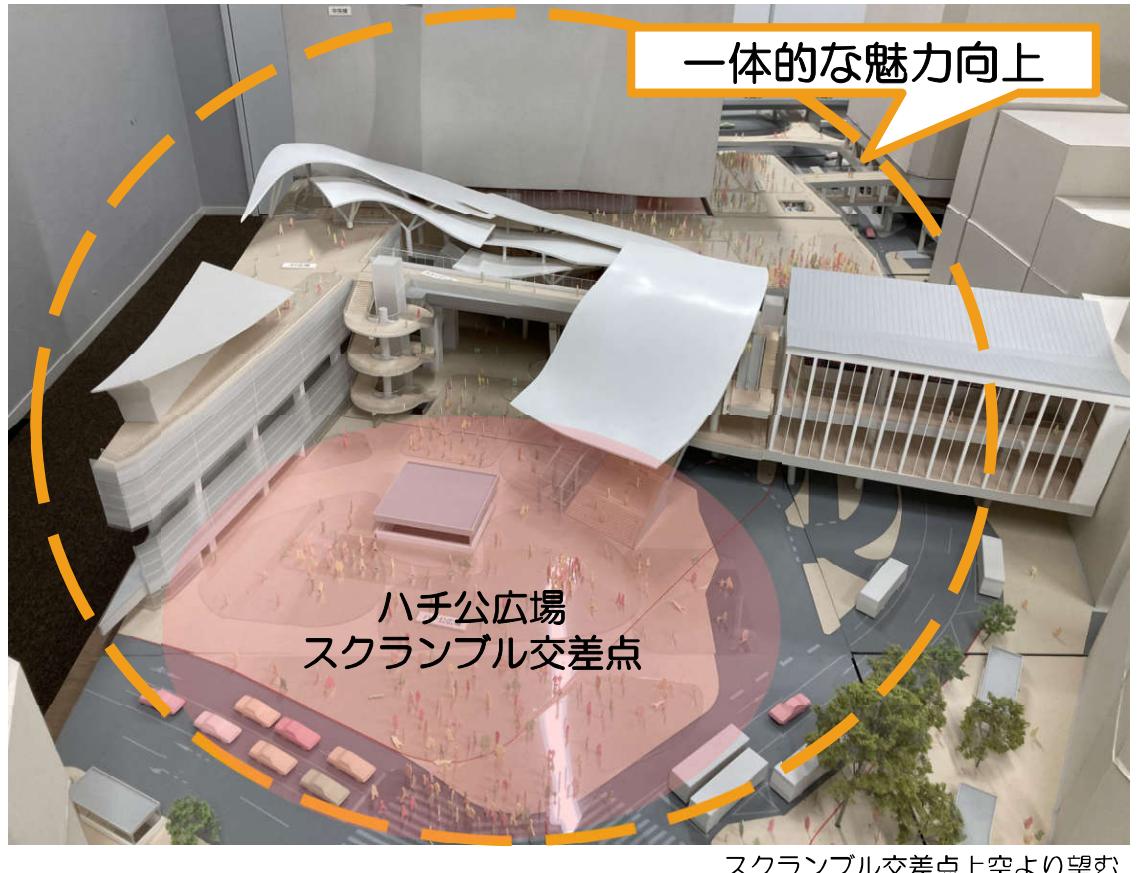
考え方のポイント

- ◆非常時のみ必要な機能。
- ◆方面によらず必要な機能であり、安全確保計画を踏まえ、的確な滞留者誘導ができることが重要。
※『渋谷駅周辺地域都市再生安全確保計画』（Ver1.3 平成31年3月）では、「駅周辺や路上の混雑による混乱を回避するため、滞留者をあらかじめ定められた一時退避場所に誘導する」、「渋谷駅周辺の混乱を避けるために駅から離れる方向に誘導する」とされる。



▲エリア内外の一時退避場所
(渋谷駅周辺地域都市再生安全確保計画)

渋谷駅中心地区広場ビジョン（案）を参考にしながら、渋谷の象徴であるハチ公広場・スクランブル交差点を中心とし、周辺の主要広場空間・関連施設の一体的な魅力向上のための計画方針を検討しています。



■ 検討ポイント (計画方針(案))

- 地上広場を快適で賑わいのある象徴的な空間に
- 歩行者ネットワークを強化
- 多層的な歩行者のたまり空間を創出
⇒渋谷の多様な活動を受け止める空間へ

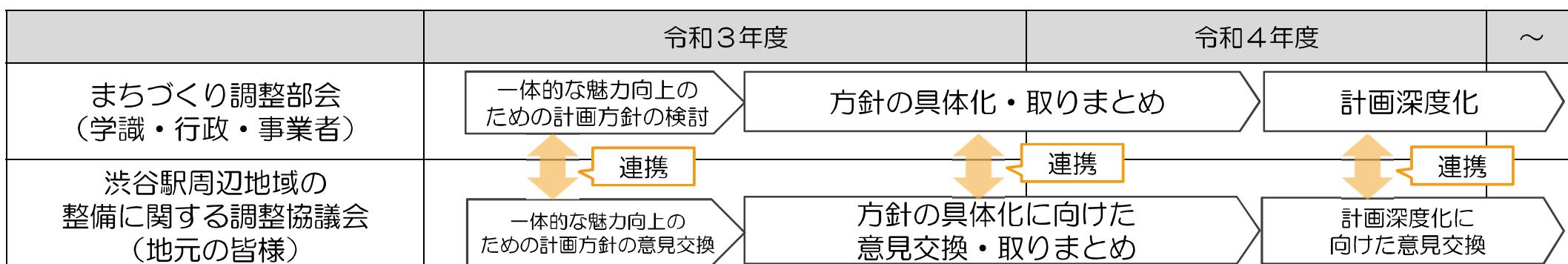
対象とする
主要広場空間
・
関連施設

ハチ公広場・西口広場	銀座線
スカイウェイ	西口アーバンコア
中央棟先端部	○字階段
西館跡地地下広場	西口上空広場
東口広場	

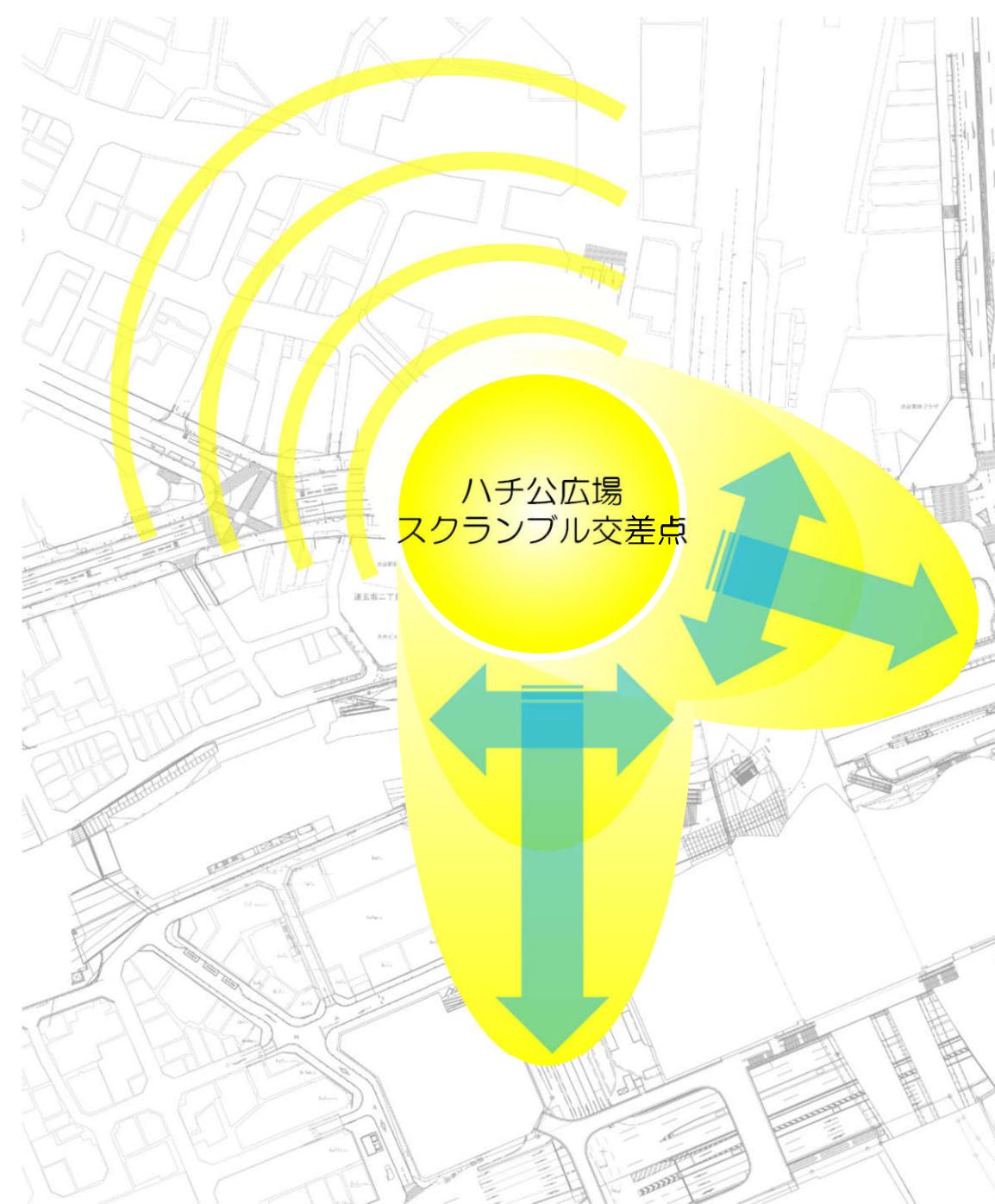


今後、地元の皆様と行政・事業者間で相互に連携し、意見交換を重ねながら方針の具体化を図ってまいります。

■ 周辺の主要広場空間等の今後の進め方



(1) ハチ公広場・スクランブル交差点と主要広場空間・関連施設との関係性について



目指すべき関係性・あり方

関連施設との相乗効果による
さらなる渋谷のシンボル性の向上

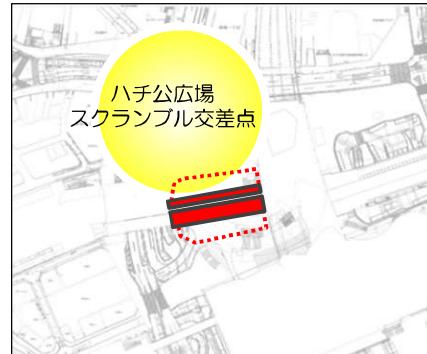
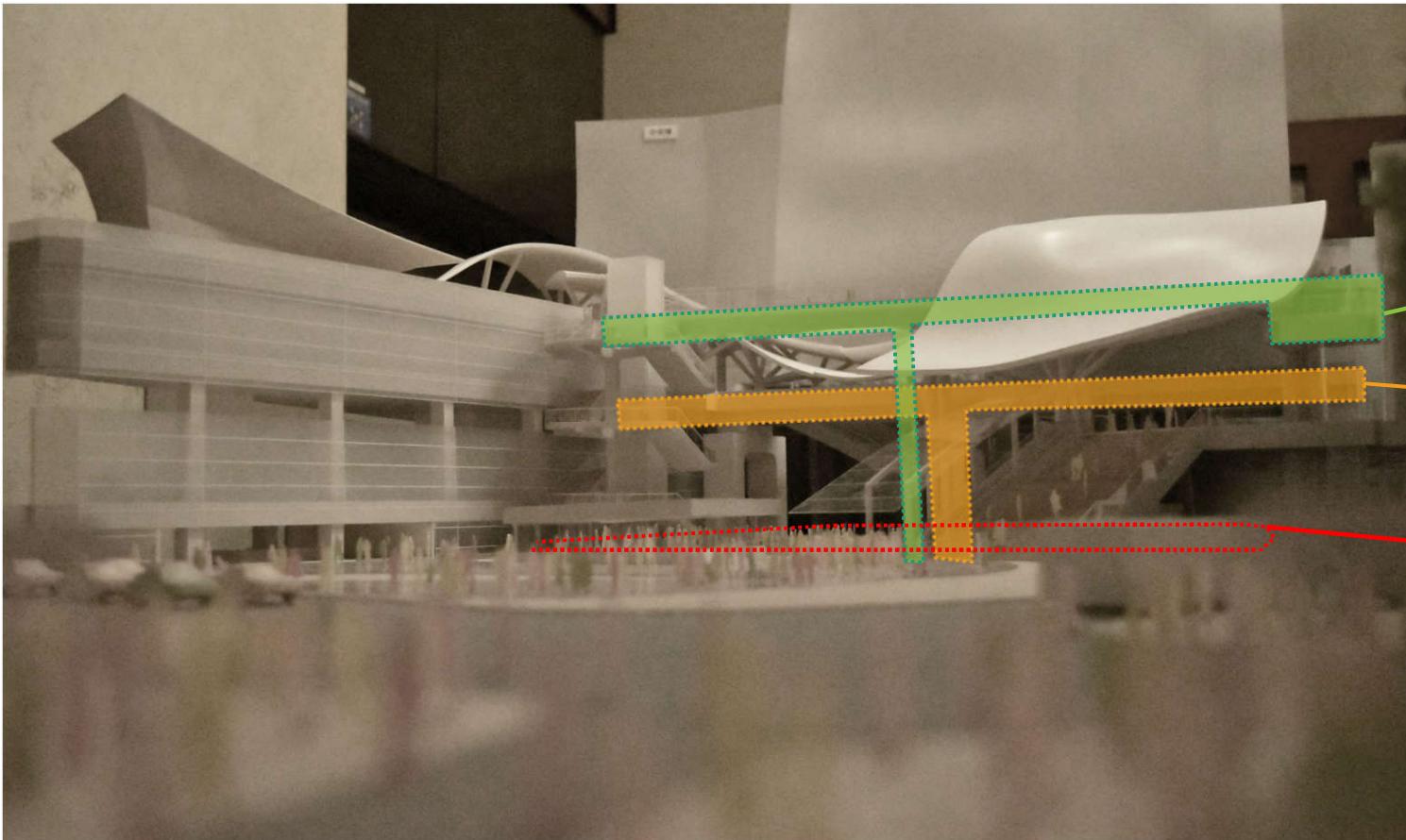
- 見る・見られる の関係性
- 広場と一体性のある関連施設のデザイン

ハチ公広場・スクランブル交差点の
人々の流れ・活動を周辺の街に繋げる

- 人々が快適に移動できるシンプルな動線計
画・快適性
- バリアをなるべく減らす物理的障害物・視線
の抜け
- 人々の流れ・活動を受け止める空間を増やす
ゲート広場・滞留空間
- 空間の魅力を高める渋谷らしいデザイン

(2) ハチ公広場・スクランブル交差点から見た主要広場空間・関連施設の課題と計画のポイント

■銀座線・スカイウェイ・西館跡地地下広場



スカイウェイ

銀座線

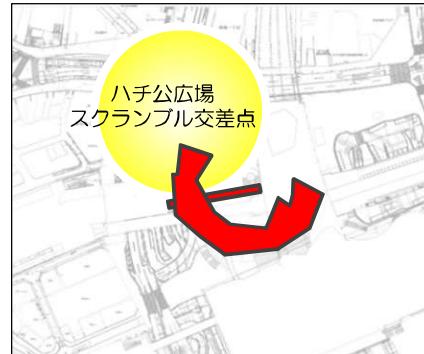
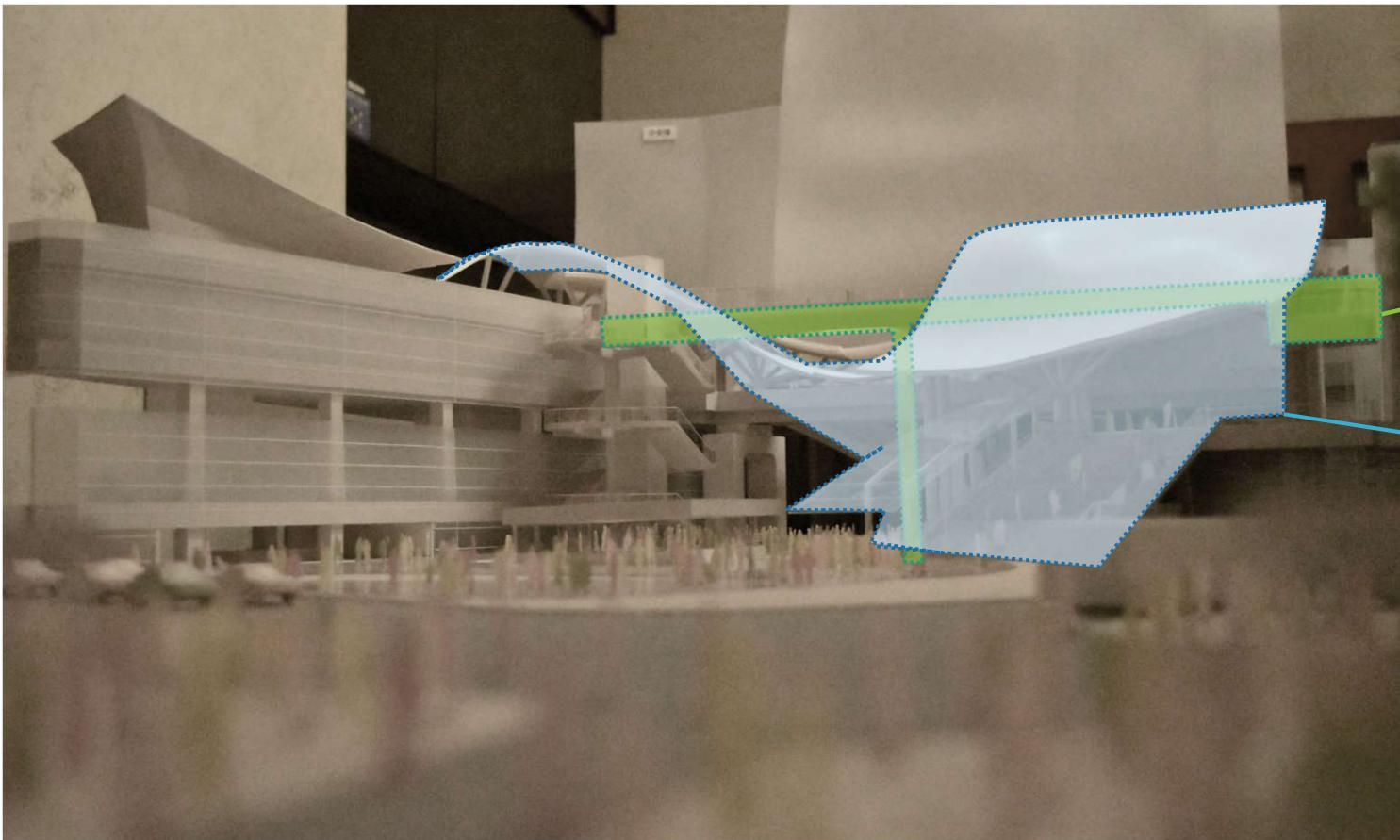
西館跡地地下広場

• 地上・地下の南北動線に柱等のバリアが存在

- 銀座線橋脚の削減
- 施設の構造的な統合等による柱の集約
- 地上・地下における利用しやすい広場空間の確保

(2) ハチ公広場・スクランブル交差点から見た主要広場空間・関連施設の課題と計画のポイント

■アーバンコア・スカイウェイ



スカイウェイ

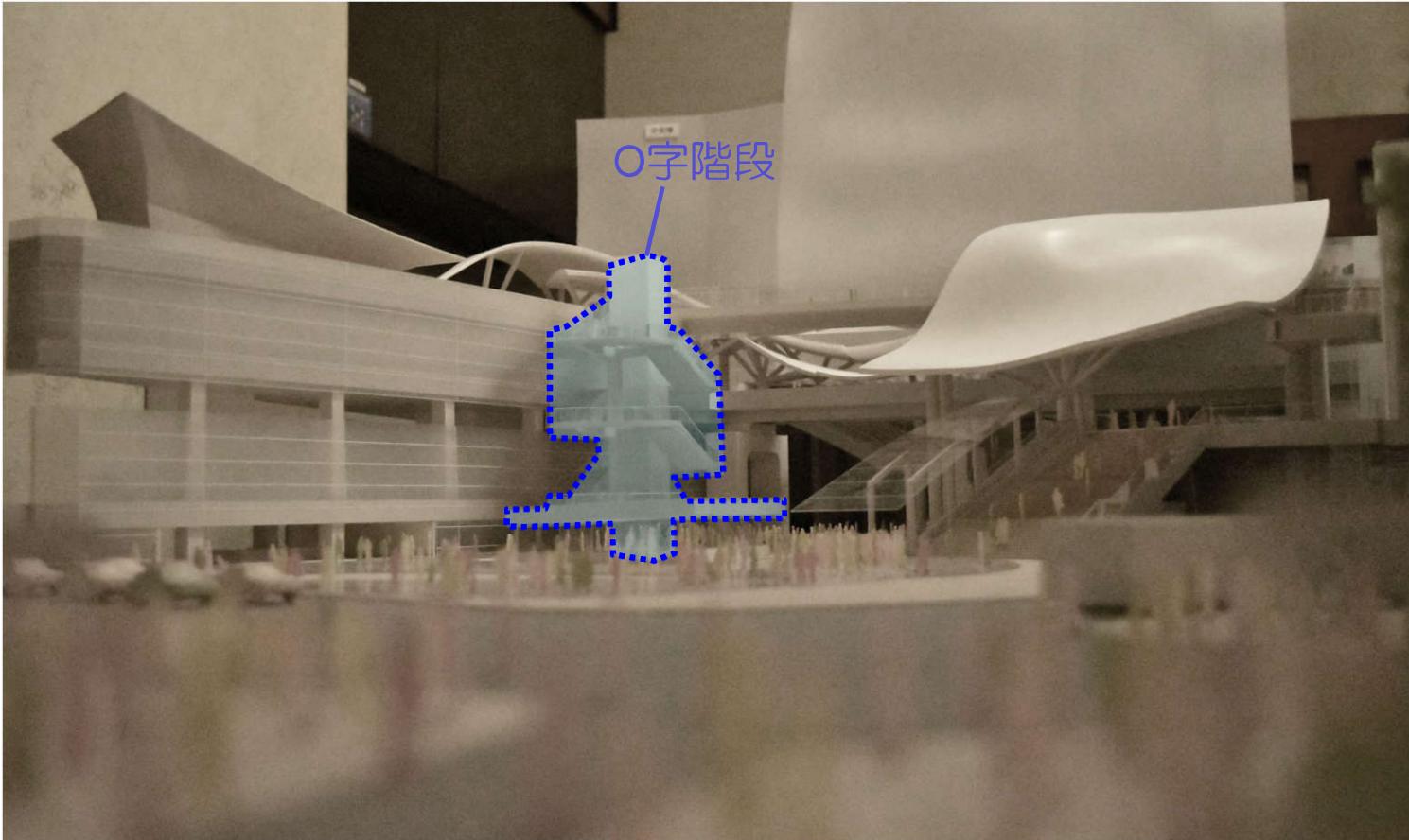
アーバンコア・
大屋根

• 地上～デッキ階・まちの南北をつなぐコアとなる空間

- 施設の構造的な統合等による柱の集約
- 高さの抑制による南北の見通し向上
- 南北を結ぶ地上動線の快適性向上
- 地上～デッキ階を東西・南北につなぐシームレスな動線

(2) ハチ公広場・スクランブル交差点から見た主要広場空間・関連施設の課題と計画のポイント

■ O字階段

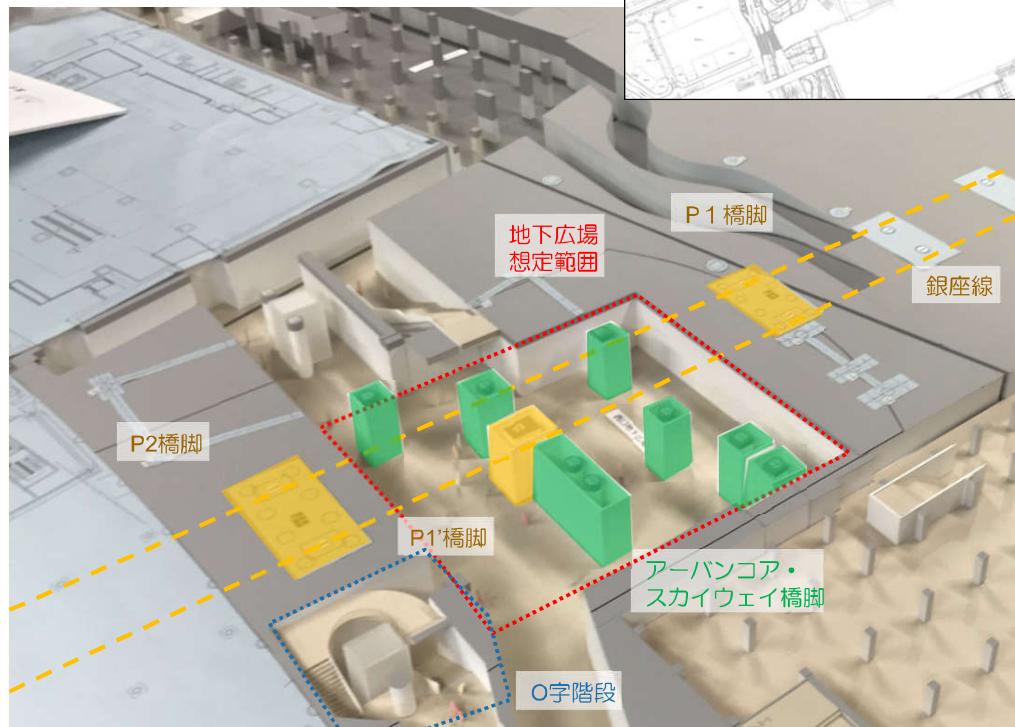
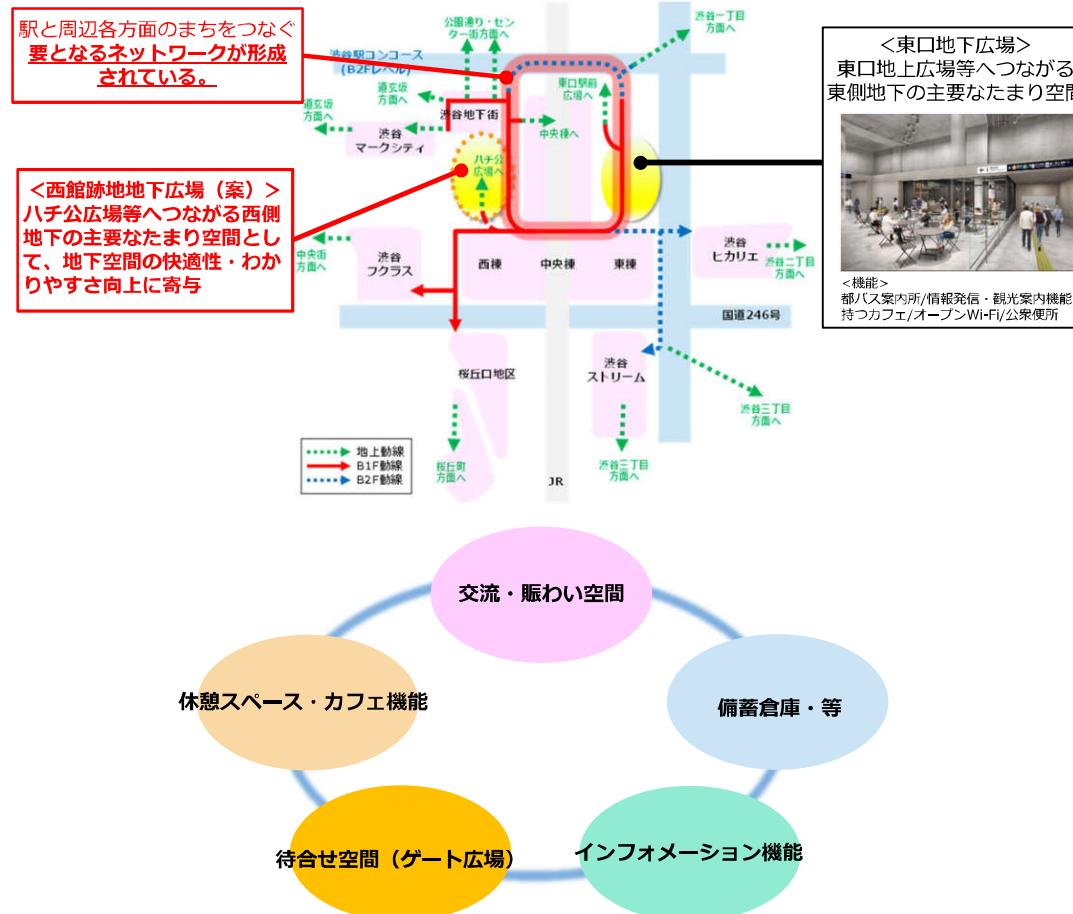


- スクランブル交差点からの視認性が高い
- 広場と中央棟3・4階をつなぐ縦動線だが、着床階が限定

- 関連施設と調和した形状
- 全階着床により、利便性の高い縦動線機能の確保

(2) ハチ公広場・スクランブル交差点から見た主要広場空間・関連施設の課題と計画のポイント

■西館跡地地下広場

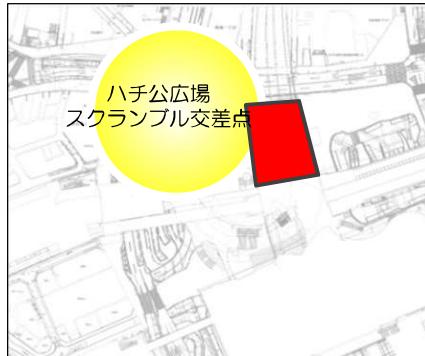
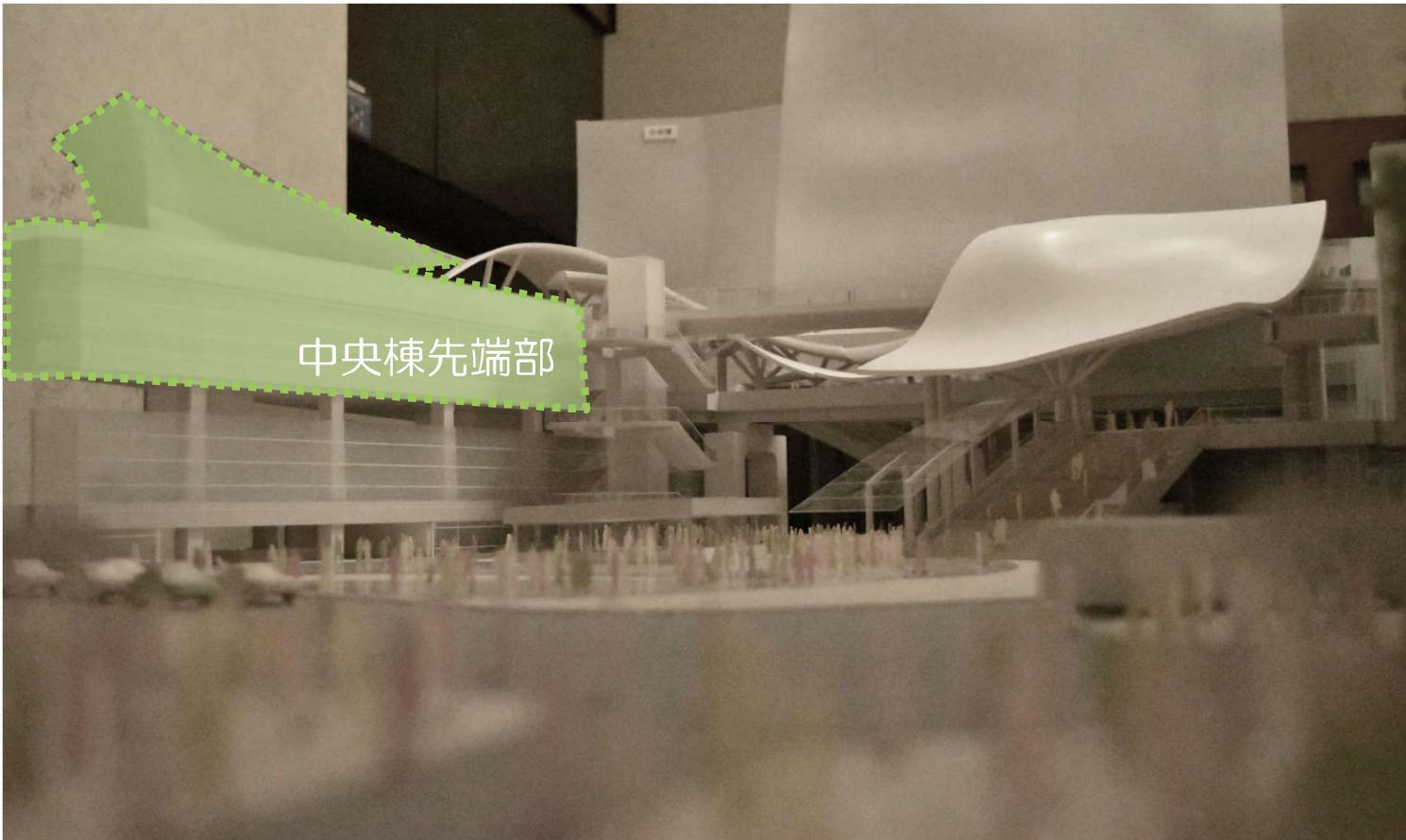


- ハチ公広場に近接する貴重な広場空間だが、関連施設の柱等が存在

- ▶ 関連施設の柱の集約化等を踏まえた空間の活用
- ▶ ネットワークとたまり空間としてのあり方

(2) ハチ公広場・スクランブル交差点から見た主要広場空間・関連施設の課題と計画のポイント

■中央棟先端部

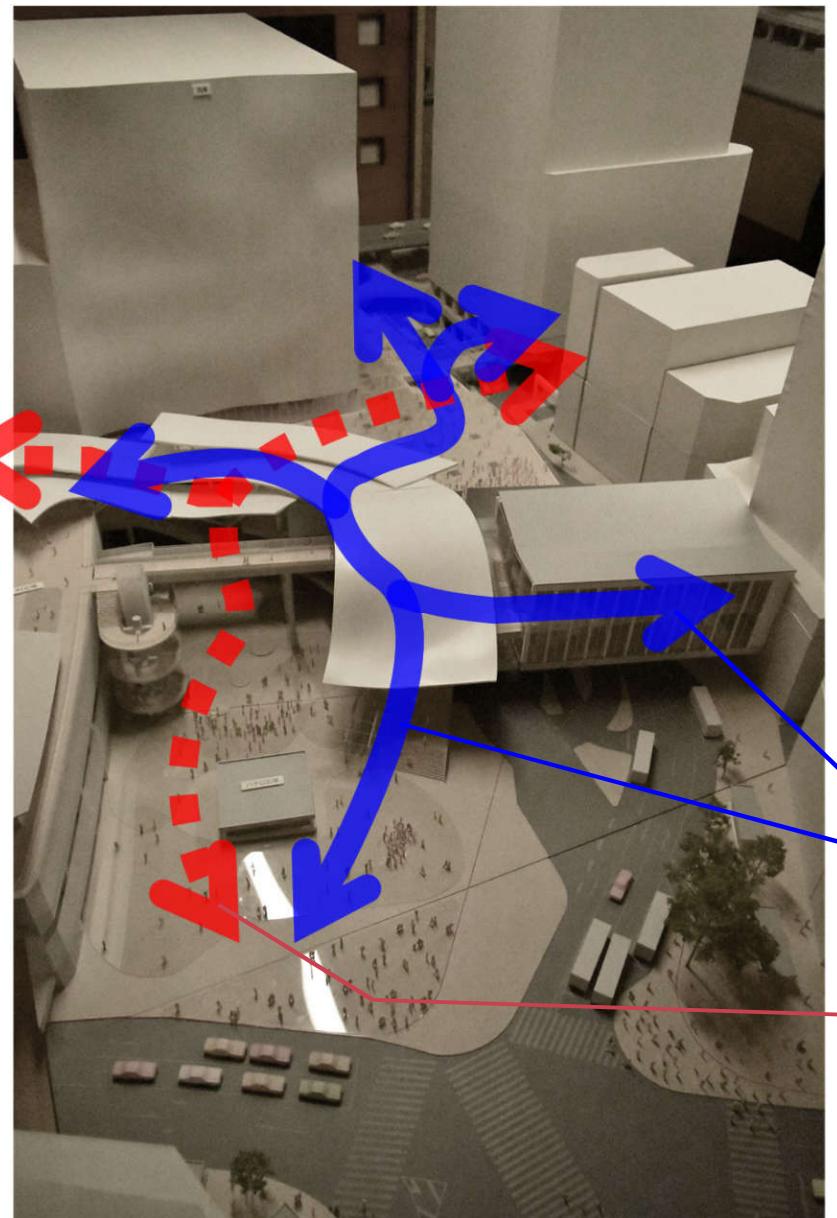


- ハチ公広場に隣接し、東西からの視認性の高い、渋谷の中心的な空間

- 既計画とのバランスを踏まえた機能導入の検討
- 広場に面した建物の象徴的なデザイン

(2) ハチ公広場・スクランブル交差点から見た主要広場空間・関連施設の課題と計画のポイント

■広場空間・動線



- ・『ハチ公広場～南北・東西、交通結節点～まち』をつなぐ歩行者ネットワーク
 - ◆ 明快でシームレスな動線
 - ◆ 快適な歩行者空間
 - ◆ 連続する広場空間
 - ✓ 歩行者動線を受け止めるゲート広場
 - ✓ 動線に隣接する滞留空間
 - ✓ 広場同士の見る・見られるの関係性

➤ 谷地形の特性を踏まえた立体的・多層的な動線と連続する広場空間の整備

デッキ階（2階～4階）動線

地上階（1階）動線